

新型インフルエンザのウイルス性肺炎は 近距離空気感染による

いずみ
泉

のぶ
信 夫

キーワード：新型インフルエンザ，迅速インフルエンザ診断テスト (RIDT)，
脳症，ウイルス性肺炎，近距離空気感染

要 旨

新型 Flu による重症患者の厚労省への届出より，16歳以下の脳症50名と肺炎・呼吸不全26名の神経，呼吸困難症状と迅速診断テスト成績の関連を検討した。問題症状は第1日までに78%と88%に発症した。テスト陽性は症状発症前後までに96%と65%，症状があるのに陰性は0と8名(31%)であった。上気道のウイルス増殖が下気道に及び肺炎になったとは考え難い。新型のHAの受容体との親和性は季節性より高く，比較的に高濃度エアゾルの下気道への沈着により下気道・肺病変をきたしうる(近距離空気感染)。換気と加湿の必要性を強調すべきである。肺炎患者の推定感染時やFlu発症後の部屋などの状況を把握したい。

はじめに

日本も新型インフルエンザ(Flu)の本格的流行に突入した。確定診断された重症患者の厚労省への届出はホームページで閲覧できる。10月24日現在，129名(試算)の届出があり，小児例の多くは脳症か肺炎である(喘息の増悪，心筋炎，無気肺もある)。新型Flu(関連を含む)により29名(小児9名)が死亡した。

新型Fluの肺炎例の大多数はウイルス性肺炎

(以下，肺炎)であるが^{1,2)}，ウイルスがエアゾルで肺に達したのなら，その対策が重要になる。一般に部屋の換気や，状況によりN95マスクの使用もあるが，一層の強調が必要になる。患者が呼出しエアゾル化した粒子の再吸入による肺炎を防ぐ意義も生じる。

他方，迅速Flu診断テスト(RIDT)の感度は鼻咽頭部のウイルス量とよく相関し早期は低い。新型では季節性の同等以下とされる^{3,4)}。

脳症，肺炎ともにFlu発症後早期に発症し，速い進行が特徴とされ⁵⁾，新型も同様とされるが，小児の届出例で確認したい。さらに脳症例と肺炎例のRIDTの結果の比較により，肺炎が空気感染よ

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科
連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613